



きむら たいじ 岳温泉開発の功労者 **木村 泰治** (1870~1961)

今や全国にその名が知れわたっている岳温泉。現在の岳温泉の繁栄は、木村泰治の熱意と不屈の精神があったからこそでした。

明治3年(1870年)4月8日、秋田県大館に出生。少年時代は身体虚弱で学業成績にも影響が生じ、小学校卒業時には50人中の49番であったといわれています。しかし、明治19年(1886年)に入学した東京英語学校では猛勉強の努力の末、2年生の時には首席になる程でした。

同28年(1895年)内閣官報局に就職、そこで後に小説家として名を馳せた^{ふたばていしめい}四迷の知遇を得ます。四迷は泰治の性格や仕事ぶりから、新聞記者への転職を勧め、台湾に渡った泰治は台湾日々新聞の記者として能力を発揮し、編集長に昇格。同41年(1908年)に実業家へ転身。手がけた企業は20を超え、台湾随一の実業家に成長し、昭和12年(1937年)には台湾商工会議所の初代会頭にまで登りつめました。

泰治と岳温泉の関わりは、大正12年(1923年)にさかのぼります。当時の岳温泉は7軒の旅館が担保に入り、高利貸しから借金をして急場をしのぐという最悪の経営状態でした。そのため、借金を肩

代わりしてくれる新たな温泉経営者として泰治に白羽の矢がたちました。一度は断ったものの、その熱意に負けて岳温泉を訪れたのです。

泰治は、安達太良山を背景とした自然環境、交通の利便性、温泉湧出量・湯性質から他に秀でる素晴らしい温泉と確信し開発を決意。まず、土地と温泉のすべての権利を買い取り、道路を整備し、湯元から長さ1間の松製管を4千本以上つなぎ合わせて引湯し、豊富な湯量を絶えず確保したのです。

“広大な私有地を開放し、児童遊園地・高山植物園・緑地帯などを造り、温泉を国民大衆のものとする。”という泰治の理念に基づき、国立公園指定、国民保養温泉指定、県営くろがね小屋新設などの促進を図るため、観光施設の開発・充実に私財を惜し気もなく投じました。その結果、昭和30年(1955年)に全国7か所の国民保養温泉の1つに指定され、後の繁栄の礎を築いたのです。

昭和36年(1961年)2月16日に92歳の天寿を全うし、国立公園開発の功労などにより勳三等瑞宝章を贈られました。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和6年1月~5月末)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗							
空き巣							-3
出店荒し	1	1				2	-3
その他	1	2(1)		1(1)		4(2)	-3
非侵入盗							
万引き	1	5(1)				6(1)	-10
車上ねらい	4(1)	1				5(1)	4
その他	11(2)	5(1)	3	5(5)		24(8)	5
自転車盗	1	1(1)				2(1)	-3
器物損壊			1			1	-1
住居侵入	1			1		2	2
その他	9(1)	3(1)	2(1)		2	16(3)	-6
合計	29(4)	18(5)	6(1)	7(6)	2	62(16)	-18
前年対比	-17	-6		5		-18	

※()は5月の発生件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。



~福島県警察スマートフォンアプリ~

今すぐ!

POLICEアプリふくしまのインストールをお願いします。



みなさんが被害に遭わないための最新機能を搭載しています!

インストールはこちら



二本松警察署電話 23-1212